

女性にDV「ノン」 パリから世界へ

フランス



25日、いずれもロイター
＝ナントで2019年11月

「気持ちが高まりすぎる気がしてとてもあの場に行けなかったけれど、勇気づけられた」。19年11月23日にパリ市内であったフェニサイド抗議デモを、遠くから見つめていた女性がいた。ウエディング業界で働くカミーユさん(25)は10年前、母ミリアムさんを、その恋人だった男の暴力で失った。アルコール依存症に苦しんでいた母は自助グループに参加してい

A portrait of a woman with short, light-colored hair, styled back. She is wearing a dark blazer over a patterned top. The background is a plain, light color.

「母を失った」警察に不信

「母は飲んでいなかった。男の暴力で殺されたのに、警察は原因究明を全くしてくれませんでし
た」

カミーユさんは母の死についてずつと沈黙を守っていたが、パリのデモの翌日、インスタグラムに母の写真を投稿し、反フェミサイド運動に対する賛同を示した。あの頃は警察もメディアも配偶者暴
力を事件として軽視していた。でも今、多くの女性たちが自分たちの体験を話し始めた。次は私が女性たちを助ける側に立ちたい」と、カミーユさんは語る。

「このとき警察に母を加害者から引き離す措置を講じてほしかった」と悔やむ。自助グループに参加してから半年後に母は男の家で遺体で発見された。

男は再び逮捕されたが、死因を巡る当局の対応にも苦しめられた。警察は血中アルコール濃度を示す証拠を男と母のものとで取り違え、母の死因を「アルコール摂取が原因で吐しや物を詰ませた窒息死」としていた。

行う制度もある。これに対し、01年に施行された日本のDV防止法は、「被害者が逃げることを前提とした法制度」（井上教授）だ。この法律に基づき、裁判所は加害者に接近禁止などを命じる「保護命令」を出すが、被害者が証拠や必要書類を提出する必要がある。申し立てのハードルは高く、警察への相談件数が増加する一方で、命令件数は18年に1700件と、この10年で約800件減少。双方への審尋（聞った。

毎日新聞の過去の報道をまとめたところ、19年は少なくとも80人が、妻や交際相手に対する殺人（既遂・未遂）や傷害致死の容疑で逮捕されている。また、警察庁の統計によると、配偶者からの暴力事案などの検挙件数は増加の一途をたどり（18年には9017件（前年比675件増）。暴行・傷害が約8000件で、被害者は9割が女性。殺人（未遂含む）の被害者は計153人で、うち女性は85人だ

追跡

世界的に女性の権利保障が進んでいるとされるフランスだが、男性配偶者や恋人からのドメスティックバイオレンス（DV）による女性の死者数は年間120人を超えて高止まりしている。市民団体などは「フェミサイド（女性殺し）」と呼び、抗議運動を展開。動きは各國に広がりつつある。【久野華代（パリ）、中川聰子】

「私の親友が殺された、私は絶対に忘れない」（犯人は誰だ。警察、司法、そしてあんた！）

(19年)で、主要7カ国(G7)の中で2位。しかし、18年に配偶者や交際相手から殺害された女性は12人。

男性
80%

A pie chart showing the percentage of men in the population. The chart is divided into two segments: a smaller grey segment labeled '男性' (Male) at 18%, and a larger red segment representing the remaining percentage.

殺人事件被害者の 男女別割合の世界統計

やすい場面では制度が変わるので、家庭という見えない場所では変わらない被害の現実があった。これに私たちちは慣っている」と話す。

「フェニックスで反対された。女性たちの行動が盛り上がりを始めたのは、19年ごろから。私は仮全土に拡大し、フサイドは社会問題化しつづけた。」

怒りの声を
、政府も動
省は10月、
する暴力事
事件の65%
ト
ル
19
年11
月25
日
日本でも女性への暴力に
抗議する動きが広がる。性
被害の実態を訴える「ラ
ワーデモ」が毎月全国各地
で実施されている
年12月には自隠し
る反「フェミニマン
ンス・パフォーマン
・渋谷で行われた

ほか、19
き取り)を省略し緊急的に
をして踊
被害者を保護したり、警察
ド」のダ
など公的機関が被害者の代
わりに保護を申し立てたり
できる制度の必要性が指摘
される。

A vertical collage of three photographs documenting a protest. The top image shows a woman in a red dress holding up a portrait of a child. The middle image shows two women holding long red ribbons over their heads. The bottom image is a wide shot of a large crowd of people holding numerous protest signs with various messages.

で実施されているほか、19年12月には自隠しをして踊る反「フェミニサイド」のダンスパフォーマンスも東京・渋谷で行われた。

き取り）を省略し緊急的に被害者を保護したり、警察など公的機関が被害者の代わりに保護を申し立てたりできる制度の必要性が指摘

日本保護対策遅れ

配偶者などによる女性の殺害

国連葉物犯罪事務所の調査報告書によると、2017年に全世界で約8万7000人の女性が殺害され、うち6割は配偶者や交際相手、家族など近しい人物が加害者だった。男性被害者に対するこの割合は4割にとどまり、国連は配偶者などによる女性の殺害が男女関係の不平等に由来する問題であると位置付けている。

ユッセル、マドリードなど
歐州主要都市のほか、米国
やメキシコなど各地に波及
し始めている。フランスの
社会学者、ステファニー・
ルガル氏は「政府の対応は
十分とは言えまい。(フェミ